

優秀賞

わかやまの未来社会について

和歌山県立桐蔭高等学校 二年

南 玲

私が、初めて大阪・関西万博を訪れたのは、開幕日の四月十三日でした。その当時、私は万博には興味がなく、一度しか行かないだろうと思つていきました。しかし、実際に訪れてみると、自分の知らない様々な国の文化や最新技術を体験することができ、気が付くと通期バスを購入して最終的に、十三回訪れるほど万博に心を奪われてしまいました。そこで、私が万博で体験した技術によつて、わかやまの未来社会がどのようになるのかについて考えてみました。

一つ目は、自動運転バスの普及です。現在、日本ではバスドライバー不足が問題視されており、和歌山県も例外ではなく、バス路線の維持が難しい地域もあります。その問題の解決のため、自動運転バスが普及し、公共交通としてわかやまの社会を支えてくれるようになるでしょう。私が実際に、万博会場内で自動運転バスに乗車して驚いたことは、人が運転するバスと変わらないくらい加速やブレーキがスムーズだったことです。また、自動運転バスに使われていたバスが電気自動車であつたため、エンジンの振動がなく、走行音が静かでした。実証実験段階だつたため、運転席には運転手が乗つていたものの、手動での運転操作はしておらず、未来の乗り物に乗つているという実感が湧きました。そして、これが実用化される未来が待ち遠しいと感じました。

二つ目は、人間洗濯機の普及です。和歌山県では、現在三人に一人が六十五歳以上の高齢者で、これからも高齢者の割合が増加し、介護を必要とする人も増加すると考えられます。その一方、介護職の人手不足が深刻です。そこで、入浴介護の負担の軽減のため、人間洗濯機が普及していくでしよう。大阪ヘル

スケア・パビリオンで展示されていた人間洗濯機は、体を洗うだけでなく、入浴者の健康状態も測定することができました。そのため、介護の現場では重宝されるのではないかと感じました。また、介護を必要としない人も、これまでには、体を洗うために入浴していましたが、未来では、これに加え、健康状態を調べるということも入浴の目的に追加されるのではないかと感じ、未来の生活がどのようなものか想像が膨らみました。

大阪・関西万博を通して、私はわかやまの未来社会をより良いものにする技術の他にも、自分のしたいことや興味のあることも知ることができました。万博で経験したことや得た知識を、今後の人生で有効に活用していきたいです。また、私の考える、わかやまの未来社会の実現は、私たち若い世代にかかっています。そのためには、私自身も、この未来社会の実現に少しでも貢献できるよう、頑張っていきたいと思います。